

メキシコだより 12月号

川田 佑樹

新年あけましておめでとうございます。今年もまだあと 7 回ほどレポートを書くのでその都度確認していただくと幸いです。メキシコは朝晩と冷え込みは激しいのですが日中は 12 月でも半袖で過ごせるほどの気候でとても過ごしやすいです。

さて、今回は 12 月の始まりに約 1 か月の冬期休業へ突入し時間的、金銭的にも余裕が生まれたため、12 月中旬ごろに行ったグアダラハラへの旅行、友人がメキシコに訪れたため近いのにも関わらず、まだ行っていなかったテオティワカンの観光について書きたいと思います。

グアダラハラ

グアダラハラはメキシコシティから大体北西の方向に位置しており、高速バスで大体 6 時間程度かかります。またグアダラハラはメキシコ第二の都市ともいわれており、中心街には多くの人、規模の大きいショッピングセンターなどもあり栄えております。



皆さんご存知のお酒であるテキーラはグアダラハラの属しているハリスコ州にあるテキーラ村が由来になっています。テキーラはまずリュウゼツラン(写真参照)と呼ばれるアロエに似た植物を原材料として作られています。そこから液を抽出し、その抽出液をタンクに移して発酵させます。その後は蒸留

を少なくとも 2 回行いその後樽に寝かせます。寝かせる年月により味は異なり寝かせれば寝かせるほど色の変化をしていきそれと同時に、味がまろやかになっていきます。さすがテキーラの町だけあってお店で売っているテキーラの量が桁違いでした。

1900 年代の前半にメキシコ壁画運動と呼ばれるものがあり、その運動に参加していたオロスコという画家はハリスコ州出身で数々の絵がグアダハラハラに残されておりました。たとえばハリスコ州庁舎には「メキシコ独立の父」と



のちに呼ばれるミゲル・イダルゴの壁画があり、またオスピシオ・カバーニヤスと呼ばれるところにも非常に壮大な絵が描かれてました。



テオティワカン

先日隣国アメリカで留学をしていた友人の 1 人がメキシコに遊びに来てくれました。その際にメキシコシティ周辺にあり、まだ行けていなかったいくつかの観光地にも足を運びました。そのうちの一つがテオティワカン遺跡です。テオティワカンは紀元前後から発展を遂げているエリアであり、その遺跡の中には 2 つの大きなピラミッドがあり、そのうちの 1 つは世界で 3 番目に大きいとされています。今回は同じ

日墨留学で来ている考古学を専門としている方と一緒に回ったので、情報量が膨大なためここに書くのは割愛させていただきますが、その当時の文明の人はすでに多くの知識等を持ち合わせており賢かったのです、もしこの当時の人が現在いたら絶大な影響力を及ぼしていたに違いないと感じました。

